

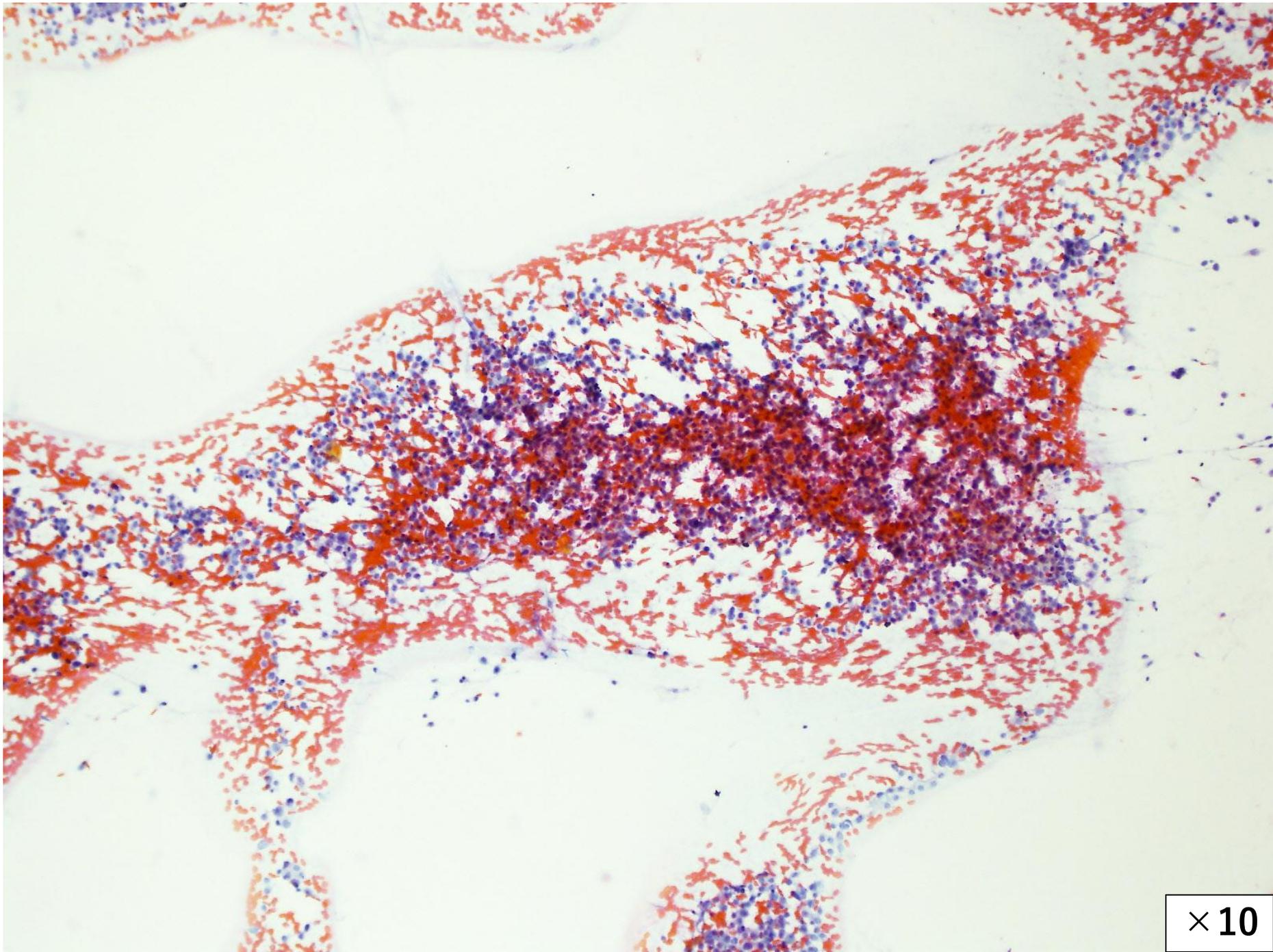
乳腺穿刺吸引における 鑑別困難な症例

株式会社リンテック 佐藤 花厘

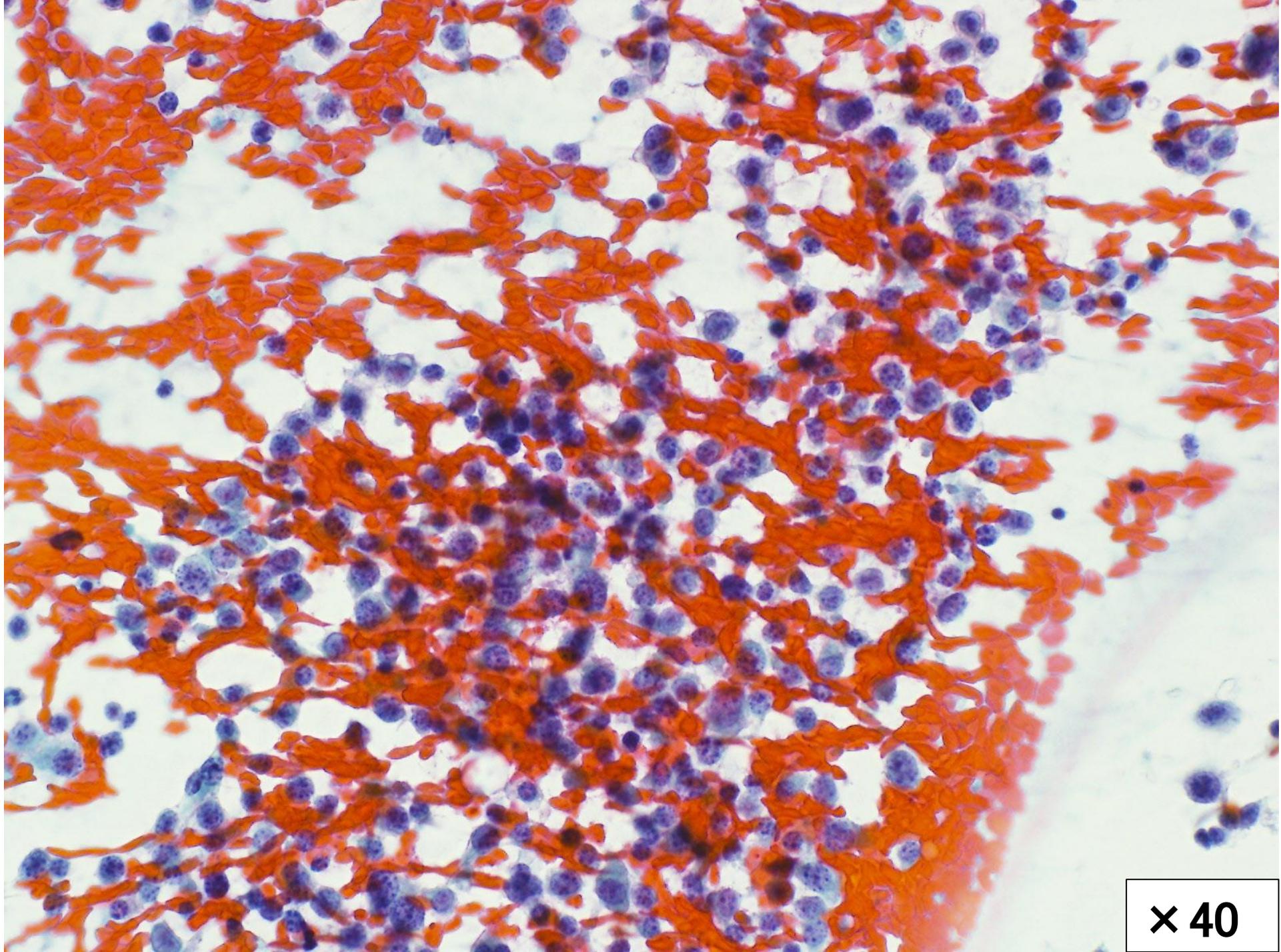
症例2

病歴

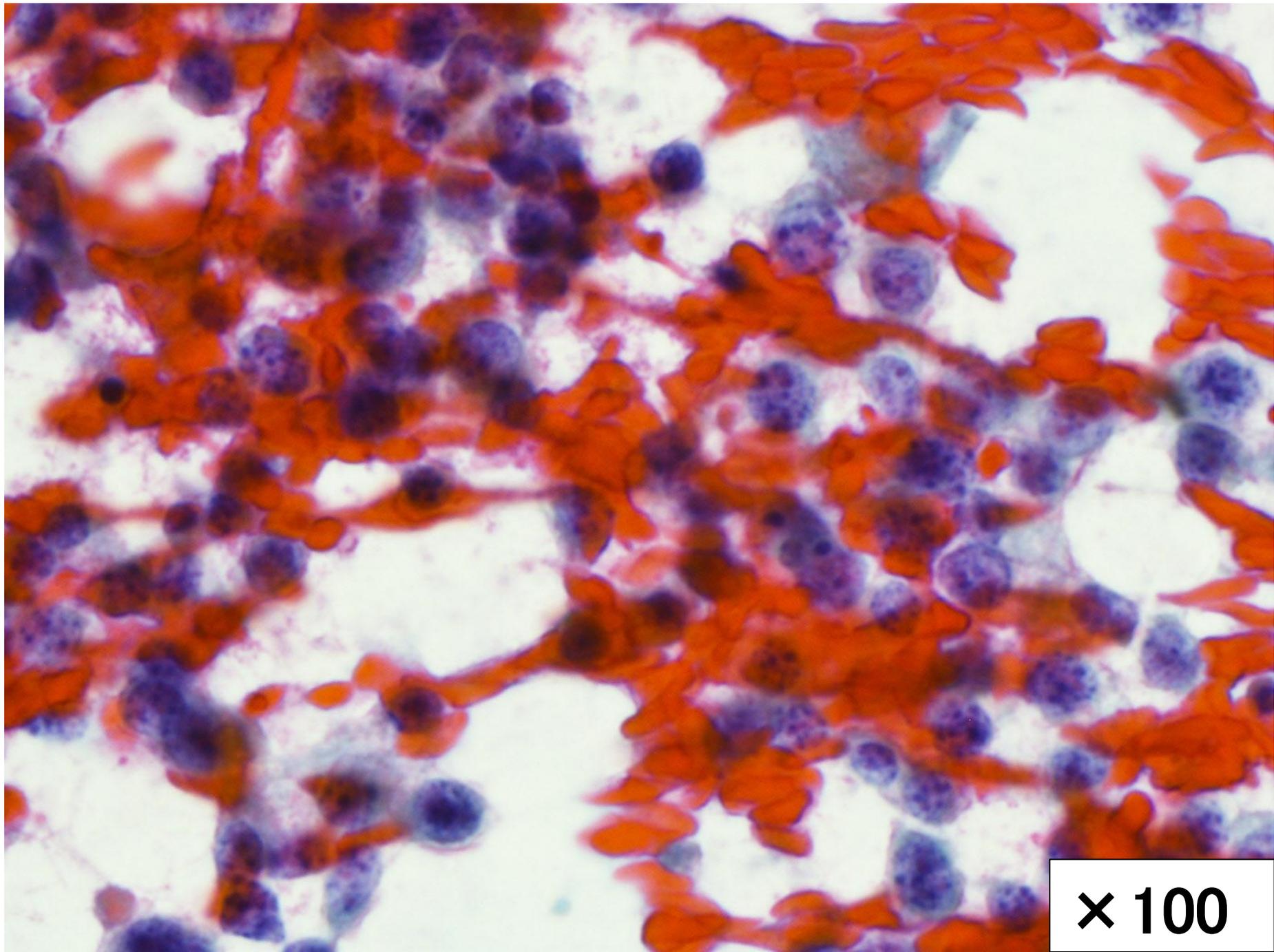
- 材料：乳腺穿刺吸引
- 年齢：50代
- 性別：女性
- 主訴：2か月前より乳腺腫瘍を自覚
- エコー所見：右乳房外縁に20mm程度の腫瘍を確認
内部は分葉状であった 血流4+



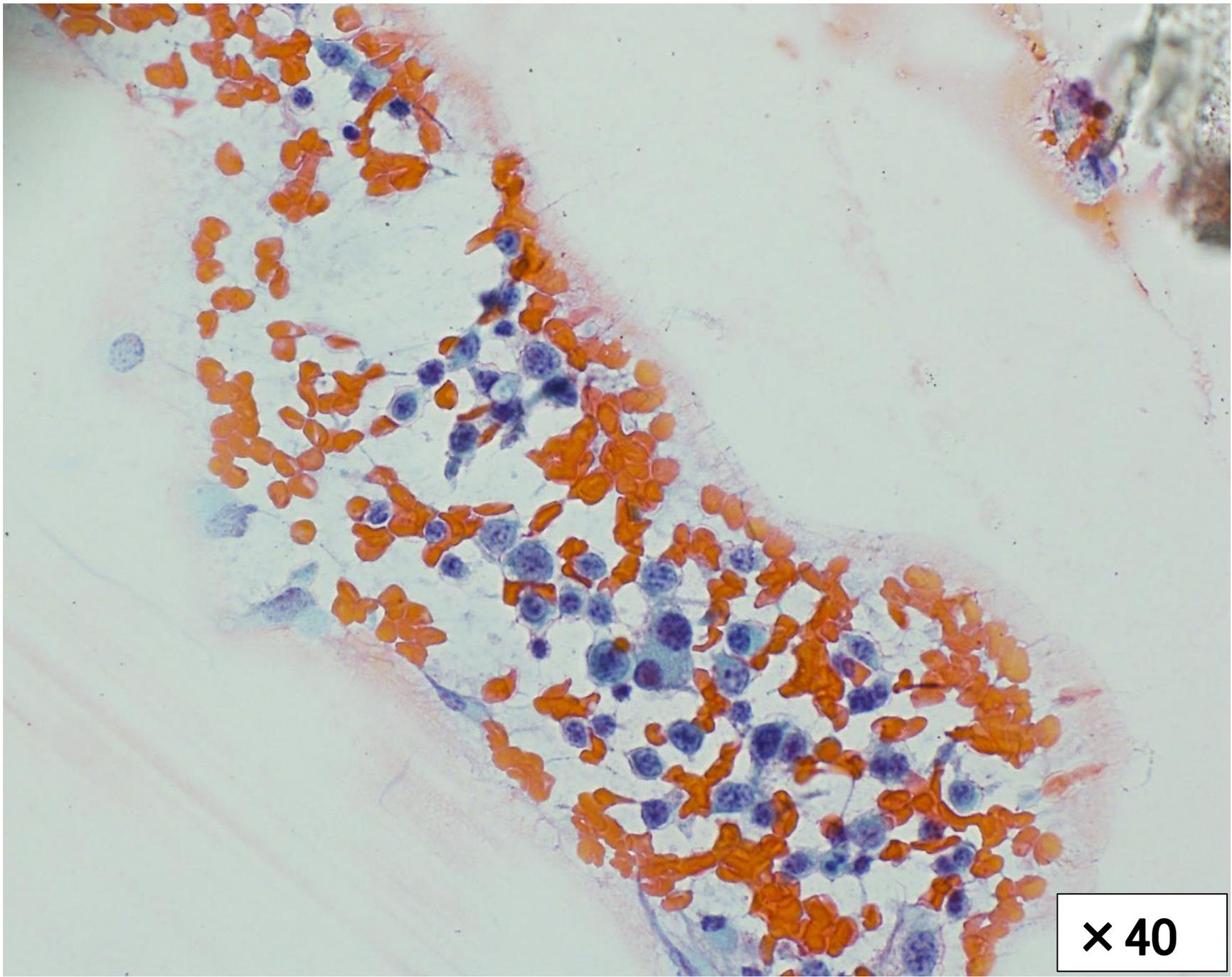
× 10



× 40



× 100

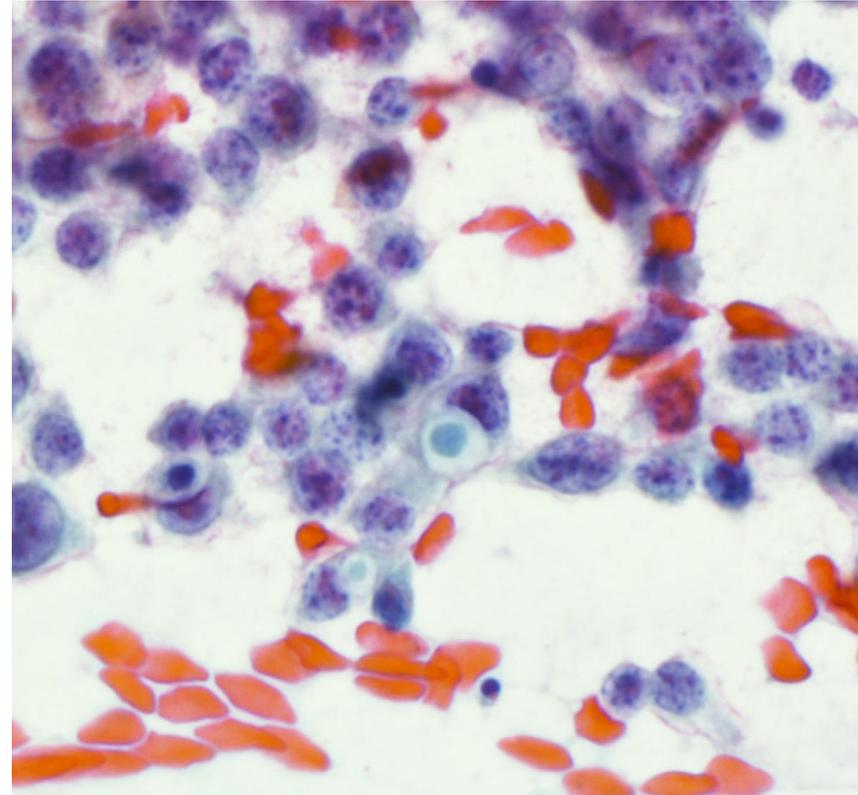


x 40

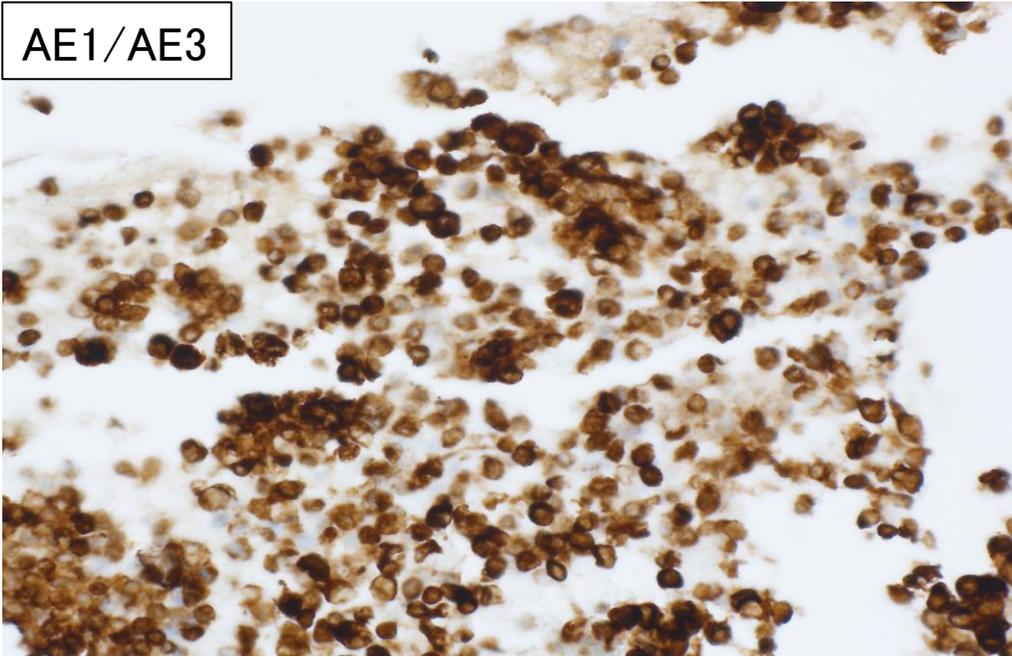
正答

正答：浸潤性乳管癌

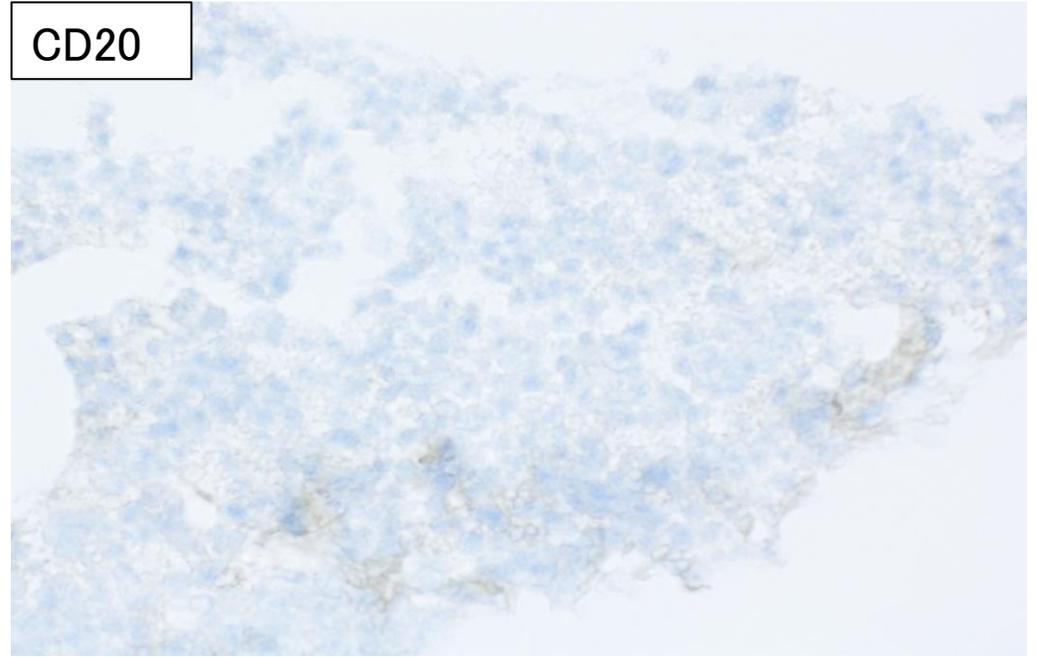
- ・出現形態
孤立散在性、二相性を欠く結合性の集塊
 - ・核
類円形で核膜は薄い
 - ・核小体
明瞭
 - ・クロマチン
顆粒～粗顆粒状
 - ・肉腫様の間質成分や筋上皮との二相性、
間質結合組織は見られなかった
 - ・ICLの出現(少数)
- 乳管癌と悪性リンパ腫の鑑別が必要



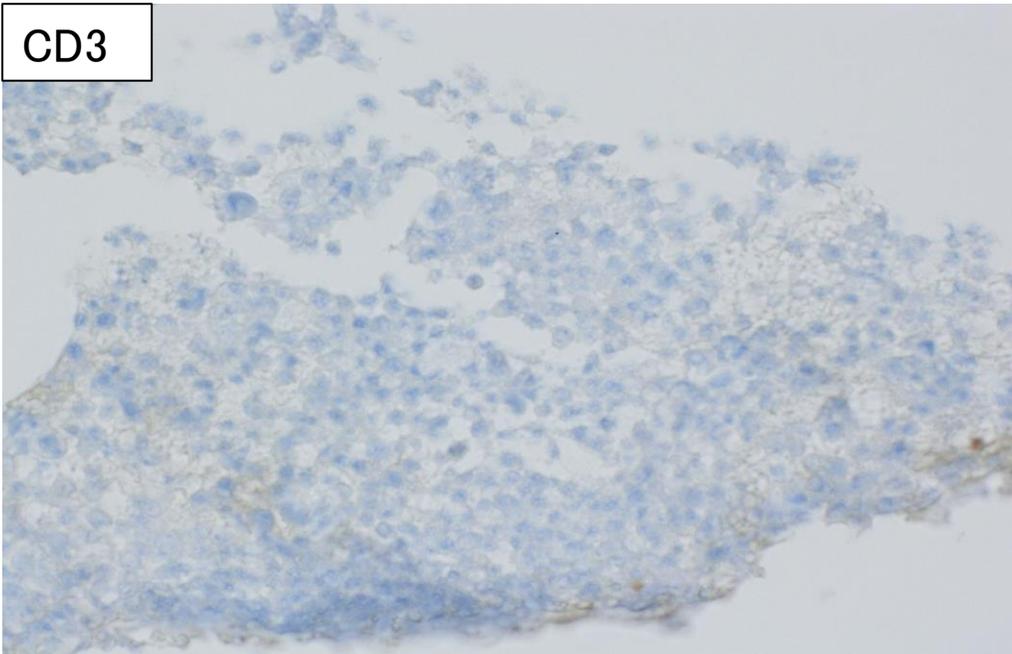
AE1/AE3



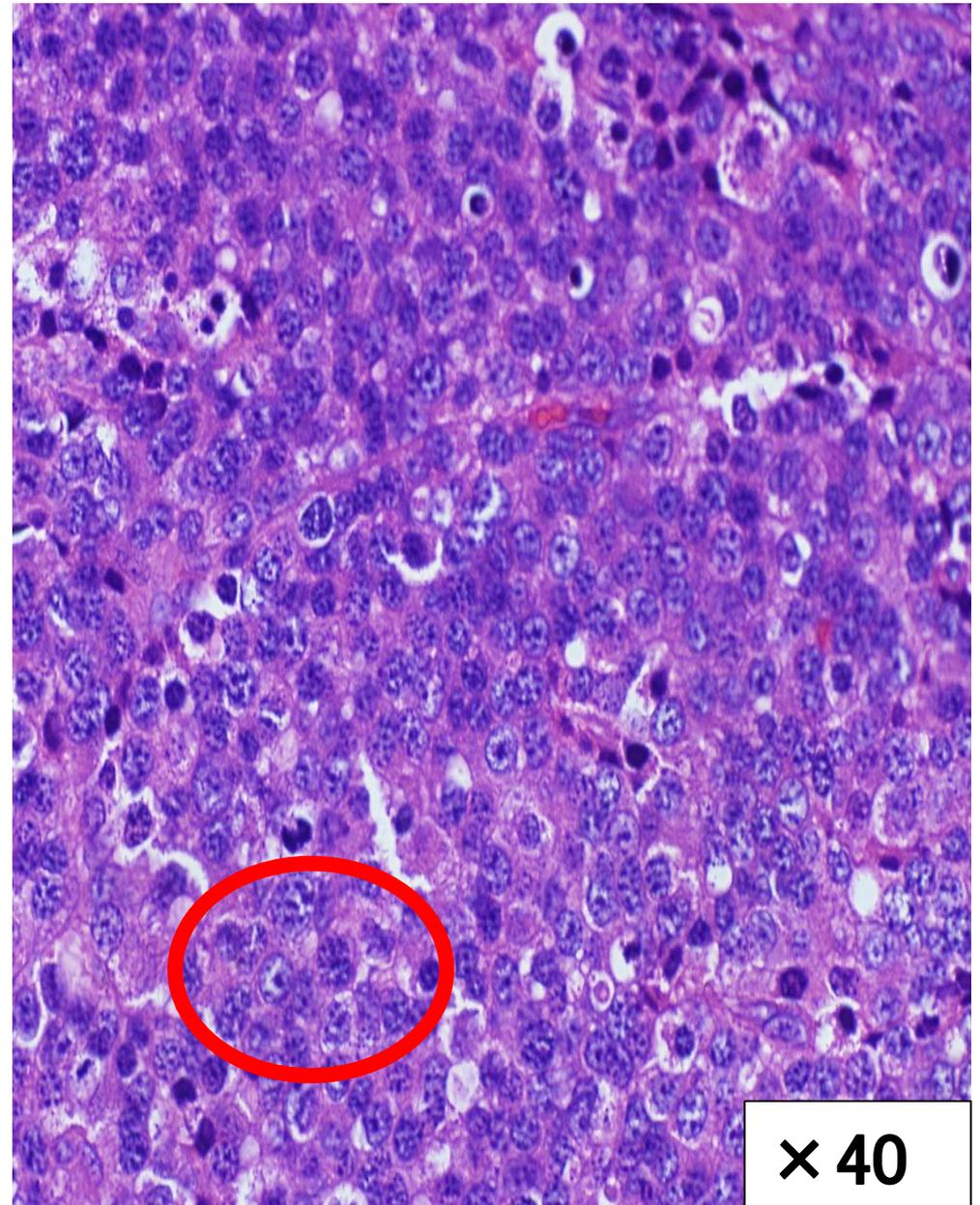
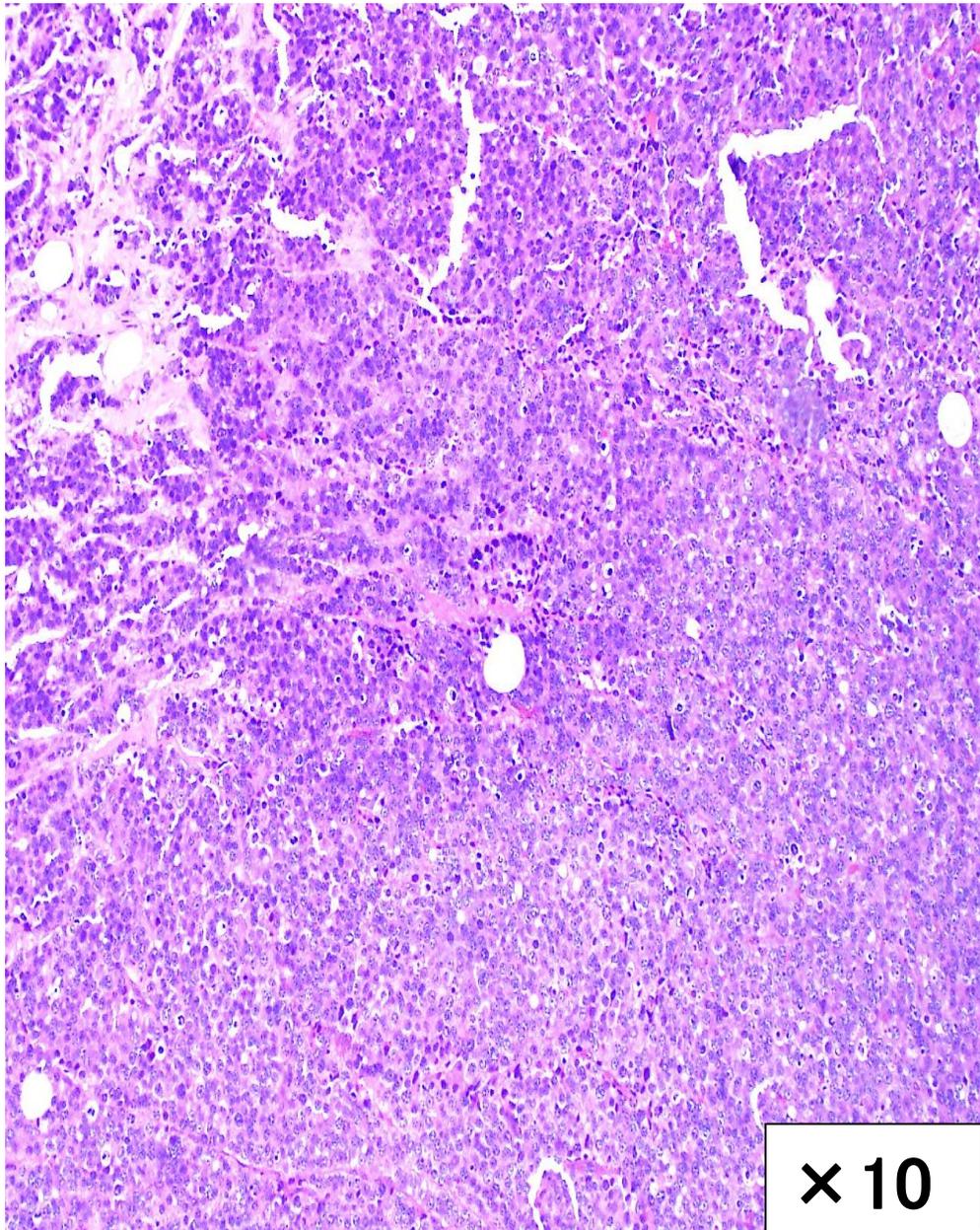
CD20



CD3



- ・AE/AE3陽性、CD3陰性、CD20陰性
→ 上皮性であり悪性リンパ腫は否定される



組織検査の結果

浸潤性乳管癌 充実型

f(+),Ly(-),v(-),乳管内進展(+)

Nuclear grade 3 : Nuclear atypia 3, mitotic count 3

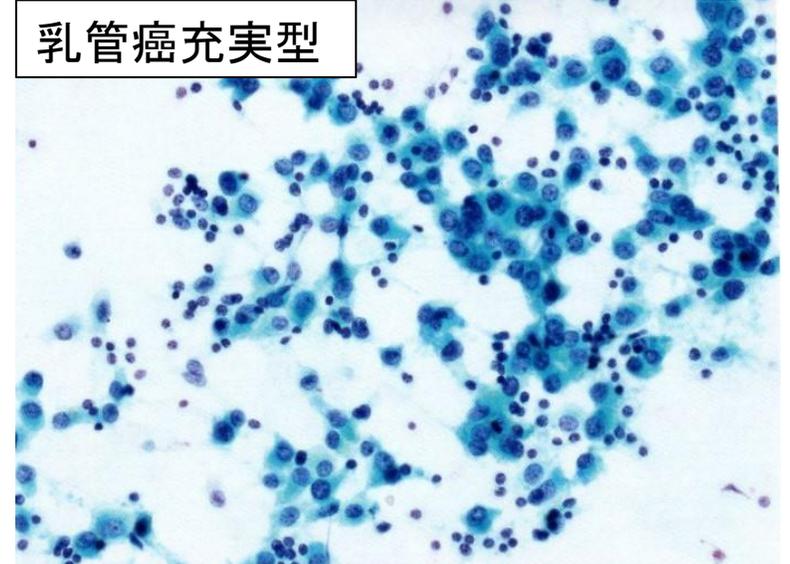
Histological grade III : Tubule formation 3, Nuclear atypia 3, mitotic count 3

- 腫瘍核出検体
- 大型で核小体の目立つ異型細胞が胞巣状、策状に増殖
- 腺管状にみえるところもあった
- 免疫染色 AE1/AE3(+) GCDFP(-) CD3(-) CD20(-)

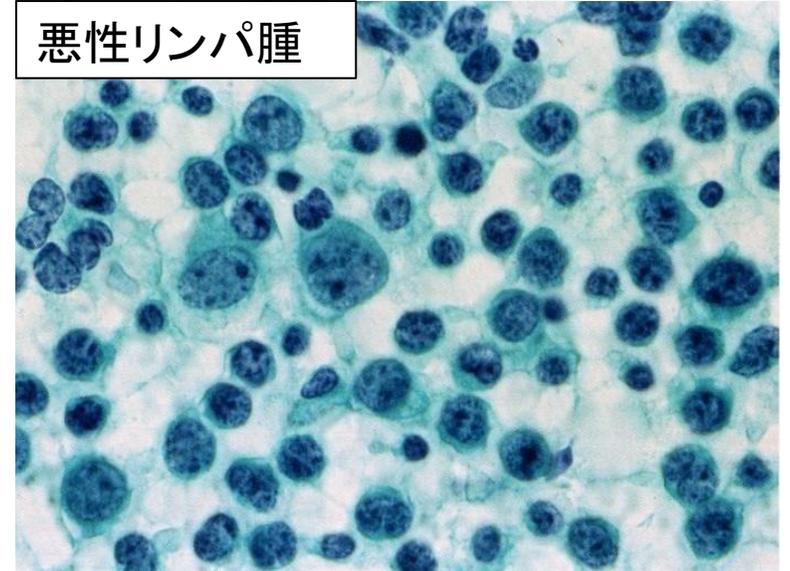
乳管癌と悪性リンパ腫の違い

	乳管癌(充実型)	悪性リンパ腫
出現形態	大小不同の重積性集塊と孤在性の細胞	孤立散在性、単調に出現 結合性は無し
核	核偏在 N/Cは高い	大型で核異型が目立つ N/Cは極めて高い
核小体	大型核は明瞭な核小体が1～数個	明瞭な核小体
クロマチン	顆粒状	網状密
その他	ICLの出現 背景にリンパ球や壊死物質	Lympho glandular bodyの出現

乳管癌充実型



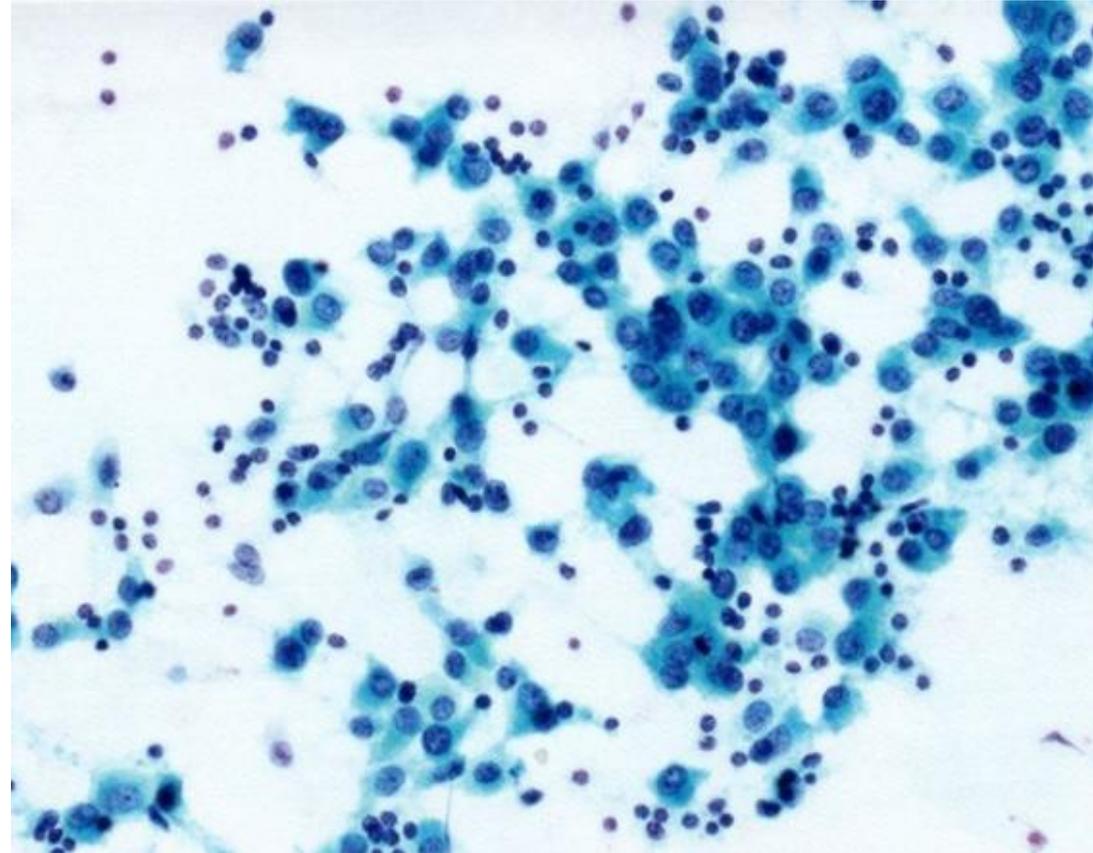
悪性リンパ腫



本例と典型的な充実型の違い

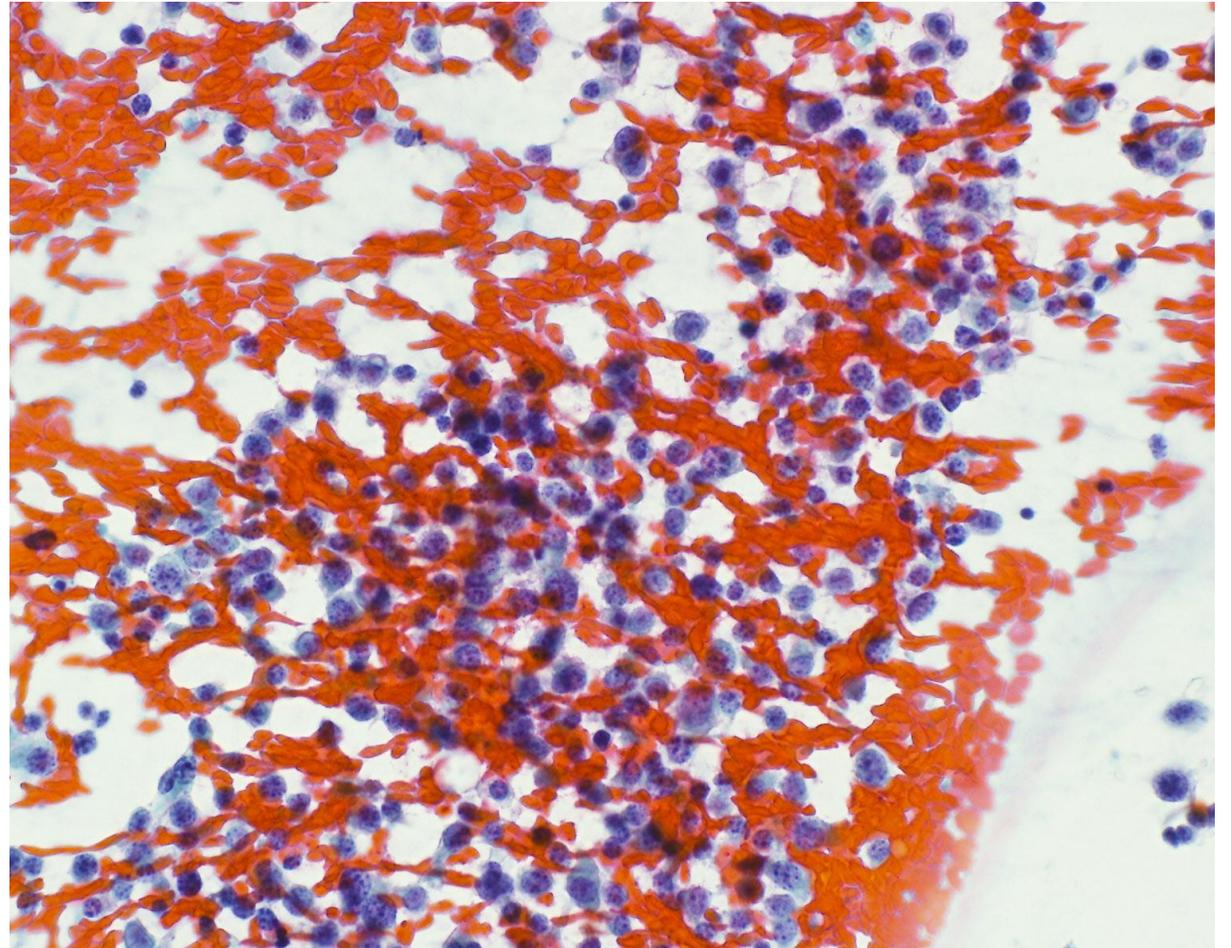
典型的な充実型

- 出現形態
大小不同の重積性集塊と孤在性の細胞
- 核
偏在 N/Cは高い
- 核小体
明瞭な核小体が1～数個
- クロマチン
顆粒状
- その他
背景にリンパ球や壊死物質



本症例

- 出現形態
結合性に乏しい 単調に出現
- 核
中心性～偏在性 N/Cは高い
類円形で核膜は薄い
- 核小体
明瞭で数個
- クロマチン
顆粒状～粗顆粒状
- その他
ICLの出現が少数だが認められた



他に鑑別が必要な疾患

- 浸潤性小葉癌

充実性胞巣を形成するタイプ

→高率に見られるICL 線状配列

- 浸潤性乳管癌(面胞型)

壊死物質を形成するタイプ

→変性傾向を示す結合性の強い核異型著明な腫瘍細胞

- 髄様癌

リンパ球浸潤を伴うタイプ

→充実型に比べ細胞が大型 泡沫状の広い細胞質 クロマチン微細

まとめ

- 今回乳腺穿刺細胞診を提示した
- 出現形態や核所見で鑑別困難であるときはリンパ球マーカー（CD3、CD20）や上皮性マーカー（AE1/AE3）などの免疫染色が有用である
- 充実型乳管癌で結合性に乏しいときはICLが上皮性か非上皮性かの鑑別の一助となる

ご清聴ありがとうございました